

教科・学科	保健体育	科目	体育	単位数	2	学年	1
使用教科書	現代高等保健体育	発行者の番号・略称	50 大修館	教科書の番号	保体 701		
指導者名	副教材等		現代高等保健体育ノート				

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性を知り、自己の能力に応じて、運動技能を高めたり体力を高めたりすることの楽しさや喜びを味わう。 ・自分だけでなく相手の変化にも気づき仲間との交流の必要性を知ることができる。 ・健康・安全に留意し運動を行い、公正、協力、責任などの社会性を習慣化し、日常生活に生かせるようにする。 ・自己や仲間に応じた課題や目的を設定し解決していくことができる。

2 学習の計画(どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

月	単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)	評価方法
4	体づくり運動	体ほぐしの運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでストレッチングを行ったり、緊張を解いて脱力する運動ができる。 ・のびのびとした動作で運動が行うことができる。 スイッチ・オン・ムーブ、協力運動、ウォーク&ジョグ、ペアストレッチング、リズムに乗った運動ほか 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・自己評価表
5		体力を高める運動	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭などでできる体づくりを目指した運動の計画を立てることができる。 ・スポーツテストから自己の体力が考察できる。 <p>※サーキットトレーニングは年間を通して行う。 パワー・レジスタンス・スピード系トレーニングほか、ストレッチング</p>	
6	陸上競技 器械運動 (選択)	競走(長距離走)	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルに腕を振り、リラックスして走ることができる。 ・自分の技能・体力に適したペースを設定し、スピードを維持して走ることができる。 ・自分の能力を十分に発揮することができる 	<ul style="list-style-type: none"> [長距離走] ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価 タイム計測など
7		マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・回転系で基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる ・回転系で学習した基本的な技を発展させて一連の動きで回転したり、静止したりすることができる。 ・巧技系で姿勢、体の向きなどの条件を変えて制止することができる。 ・自己の能力にあった技を組み合わせ発表できる。 <p>回転系 (前転、開脚前転、伸膝前転、倒立回転、側方倒立回転、ロンダートなど)</p> <p>巧技系 (片足平均立、倒立など)</p>	
	体育理論	スポーツの発祥と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について理解できるようにする。 <p>①スポーツの始まりと変遷 ②文化としてのスポーツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト
9	球技 武道 (選択)	サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・味方が操作しやすいパスを出すことができる。 ・パスを出した後次のパスを受ける動きができる。 ・ゴール前の空いている場所をカバーすることができる。 <p>①個人的技能 ○ボールタッチ○トラッピング・スローイング○ドリブル(フェイント) ○各種キックとパス・シュート○1対1</p> <p>②集団的技能 ○2対1 ○3対1 など ○ミニゲーム ○ゲーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価 テスト ・ルール確認 テスト ・ゲーム結果
10		ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの高さやコースなどにタイミングを合わせてボールをとらえることができる。 ・スピードを落とさずに円を描くように塁間を走ることができる。 ・ねらった方向へステップを踏みながらボールを投げるができる。 ・味方からの送球を受けるために、走者の進む塁に動くことができる。 <p>①個人的技能 ○ベースランニング ○バッティング ○キャッチング ○スローイング</p> <p>②集団的技能 ○守備での連携プレー ○バンドエンドラン ○ヒットエンドラン</p>	

11		柔道	<ul style="list-style-type: none"> 相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技や連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの展開ができる。 連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの展開ができる。 <p>①基本動作</p> <ul style="list-style-type: none"> ○投げ技の基本 (姿勢と組み方、進退動作崩しと体さばき、受け身) ○固め技の基本動作 (攻撃・防御に必要な基本動作、簡単な入り方と返し方) <p>②対人的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ○投げ技 手技 (体落とし、背負い投げなど) 腰技 (大腰、払い腰など) 	<p>[柔道]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価 <p>テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール確認 <p>テスト</p> <p>参加態度</p>
12				
	体育理論	スポーツの発祥と発展	③オリンピックとパラリンピックの意義 ④スポーツが経済に及ぼす効果	・小テスト
1	球技 武道 (選択)	柔道	2学期に同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価 <p>テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール確認 <p>テスト</p> <p>・ゲーム結果</p>
2		バスケットボール	<p>バスケットボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味方が操作しやすいパスを出すことができる。 ・パスを出した後次のパスを受ける動きができる。 ・ゴール前の空いている場所をカバーすることができる。 <p>①個人的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボールハンドリングとボディコントロール(ストップ・ビボット) ○パス・ドリブル ○シュート(セットシュート・ジャンプシュート・レイアップシュート) ○1対1 <p>②集団的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ギブ・アンド・ゴー(フロントカットイン、バックアカットイン) ○アウトナンバー(2対1、3対2) ○簡易ゲームとディフェンス(マンツーマンディフェンス) ハーフコートゲーム(2対2、3対2、3対2→3対3) オールコートゲーム(3対2、3対2→3対3) 	
3		バドミントン	<p>バドミントン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスでシャトルに変化をつけ狙った場所に打つことができる。 ・相手コートの空いた場所や狙った場所に打つことができる。 <p>①個人的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本打ち フォア・バック、ツッツキ・カット・ドライブ ○サービス <p>②試合展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ミニゲーム(ハーフコートなど) ○ゲーム(シングルス・ダブルス) 	
	体育理論	スポーツの発祥と発展	⑤スポーツの高潔さとドーピング ⑥スポーツ環境	・小テスト

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。

3 評価の観点

知識・技能	<p>競技の特性やルールを理解し、効果的な練習方法や試合の進め方について理解している。</p> <p>正しい技術や戦術を用いて練習や試合を行うことができる。</p> <p>ほか</p>
思考・判断・表現	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見できる。</p> <p>課題解決に向け、合理的、計画的に取り組むことができる。</p> <p>自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>ほか</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>競技に主体的に取り組むことができる。</p> <p>健康や安全を確保した取り組みができる。</p> <p>ほか</p>

教科・学科	保健体育	科目	体育	単位数	2	学年	2
使用教科書	現代高等保健体育改訂版		発行者の番号・略称	50 大修館		教科書の番号	保体 304
指導者名			副教材等	現代高等保健ノート			

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・運動技能を習得したり、体力を高めたりする喜びや楽しさを一層味わい、自己の能力に応じた運動計画を立てることができる。 ・運動の特性を理解し自己やチームの能力に応じた目標を設定し、目標達成の課題を解決することができる。 ・健康・安全に留意し運動を行う中で、公正、協力、責任などの社会性を習慣化し、日常生活に生かせるようにする。
--

2 学習の計画(どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

月	単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)	評価方法
4	体づくり運動	体ほぐしの運動	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに乗って心が弾むような運動ができる。 ・様々な条件で歩いたり走ったり飛び跳ねたりする運動ができる。 スイッチ・オン・ムーブ、協力運動、ウォーク&ジョグ、ペアストレッチング、リズムに乗った運動ほか ・自己の体力テストの結果を考察し、「健康に生活するための体力」、「運動をするための体力」の生活習慣の見直しに関わるの運動の計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・自己評価表
5		体力を高める運動	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の体力テストの結果を考察し、「健康に生活するための体力」、「運動をするための体力」の生活習慣の見直しに関わるの運動の計画を立てることができる。 	
6	陸上 器械体操 球技 (選択)	競走(短距離走)	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートダッシュで力強くキックできる。 ・リズムカルな走りができる。 ・高いスピードを維持した動きができる。(重心の真下の接地、後ろ足が流れない) 	[競走] <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価 タイム計測など
7		マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する技の一連の動きを滑らかに安定させ、静止することができる。 ・基本的な技の条件を発展させ、一連の動きを滑らかにして静止することができる。 ・自己の能力にあった技を組み合わせ発表できる。 	[マット運動] <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価
8		バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブでボール(シャトル)に変化をつけ狙った場所に打つことができる。 ・相手コートに空いた場所や狙った場所に打つことができる。 ・相手の攻撃に応じて守備位置を移動することができる。(空き場所をつくらない) ・ペアと連動した攻撃や守備ができる。(ダブルス) 	[バドミントン・卓球] <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価
9	卓球	<ul style="list-style-type: none"> ①個人技能 <ul style="list-style-type: none"> ○基本打ち(バド:ドライブ・ドロップ・ヘアピン・クリアなど) (卓:フォア・バック、ツッツキ・カット・ドライブなど) ○サーブ ②試合展開 <ul style="list-style-type: none"> ○ミニゲーム(ハーフコートなど) ○ゲーム(シングルス・ダブルス) ○リーグ戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール確認 テスト ・ゲーム結果 	
	体育理論	運動・スポーツの学び方	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果的な学び方について理解できるようにする。 ①スポーツの技術と戦術 ②技能の上達過程と練習 	・小テスト
9	球技 (選択)	サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・守備者の少ないゴールエリアに向かってボールを出すことができる。 ・シュートを打たれない空間にボールをクリアすることができる。 ・スペースに進入することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価 テスト ・ルール確認 テスト ・ゲーム結果
10			<ul style="list-style-type: none"> ①個人的技能 <ul style="list-style-type: none"> ○基本パス ○トラッピング ②試合展開 <ul style="list-style-type: none"> ○意図的なスペースをつくっての攻防 ○ミニゲーム ○リーグ戦 	
11		ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードの変化にタイミングを合わせてボールを打つことができる。 ・仲間の走者に合わせて、塁を進んだり戻ったりできる。 ・打球のバウンドやコースに応じたタイミングでボールをとることができる。 ・打者の特徴や走者の位置に応じた守備位置に立つことができる。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ①個人的技能 <ul style="list-style-type: none"> ○ベースランニング ○バッティング ○キャッチング ○スローイング ②集団的技能 <ul style="list-style-type: none"> ○守備での連携プレー ○バンドエンドラン ○ヒットエンドラン 	

12	体育理論	運動・スポーツの 学び方	③効果的な動きのメカニズム ④技能と体力	・小テスト
1	球技 (選択)	サッカー バスケットボール	2学期に同じ ・守備者の少ないゴールエリアに向かってボールを出すことができる。 ・スクリーンやポストプレイなどで味方の侵入する空間を作ることができる。 ・得点をとるためのチームの役割に応じた動きができる。 ①個人的技能 ○ボールハンドリングとボディーコントロール(ストップ・ピボット) ○シュート(セットシュート・ジャンプシュート・レイアップシュート) ○1対1 ②集団的技能 ○ギブ・アンド・ゴー(フロントカットイン、バックドアカットイン) ○アウトナンバー(2対1、3対2) ○意図的なスペースをつくっての攻防 ハーフコートゲーム(2対1、3対2、) オールコートゲーム(3対2、4対3 5対4) ○リーグ戦	・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価 テスト ・ルール確認 テスト ・ゲーム結果
2				
3				
	体育理論	運動・スポーツの 学び方	⑤体カトレーニング ⑥運動やスポーツでの安全の確保	・小テスト

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。

教科・学科	保健体育	科目	体育	単位数	3	学年	3
使用教科書	現代高等保健体育改訂版	発行者の番号・略称	50 大修館	教科書の番号	保体 304		
指導者名		副教材等	現代高等保健ノート				

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性を理解し、自己の能力に応じた課題を設定して自ら解決する。 ・自分だけでなく相手の変化にも気づき仲間との交流の必要性を知る。 ・運動技能を習得したり、高めたりする喜びや楽しさを味わうことができる。 ・体力を高める実践力を身に付けるとともに、自己に応じて体力を高めることができる。 ・健康・安全に留意し運動を行う中で、公正、協力、責任などの社会的なを習慣化され、日常生活に生かせるようにする。 ・競技経験者は未経験者の指導を含めた自己の課題を見つけ解決にあたる。 ・競技未経験者は自己や全体の課題を見いだし解決にあたると共に、経験者からの助言を理解し解決にあたる。
--

2 学習の計画(どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

月	単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)	評価方法
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と動きを合わせたり、対応したりすることができる。 ・仲間と協力して課題に挑戦する運動を行うことができる。 スイッチ・オン・ムーブ、協力運動、ウォーク&ジョグ、ペアストレッチング、リズムに乗った運動ほか ・自己の体カテストの結果を考察し、体力構成要素をバランスよく全面的に高めることをねらった運動計画を、定期的に見直すことができる。 ※サーキットトレーニングは年間を通して行う。 パワー・レジスタンス・スピード系トレーニングほか、ストレッチング	・授業態度観察
5	陸上器械体操(選択)	競走(短距離走)	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルな走りができる。 ・高いスピードを維持した動きができる。(重心の真下の接地、後ろ足が流れない) ・速く走るペース配分、それに合った動きができる。 	[短距離走] ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価 ・タイム計測
6		マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する技の一連の動きを滑らかに安定させ、静止することができる。 ・基本的な技の条件を発展させ、一連の動きを滑らかにして静止することができる。 ・自己の能力にあった技を組み合わせ発表できる。 	[マット運動] ・授業態度観察 ・自己評価表 ・技能評価
7	球技(選択)	ソフトボール ソフトテニス バドミントン バレーボール 卓球	ソフトテニス・バドミントン・バレーボール・卓球 <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを相手コートの守備のない空間に緩急、高低をつけて打つことができる。 ・ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして守備ができる。 ・ボールに変化をつけて、ねらった場所にサーブを打つことができる。 ・チームの作戦に応じた守備位置から拾ったりつないだり打ち返したりできる。 	・授業態度観察(含技能評価) ・自己評価 ・学習ノート ・ゲーム結果
	体育理論	豊かなスポーツライフの設計		
9	球技(選択)	ソフトボール サッカー バドミントン バレーボール 卓球	ソフトボール <ul style="list-style-type: none"> ・スピードの変化にタイミングを合わせてボールをとらえ、空いた方向へねらって打ち返すことができる。 ・仲間の走者の動きに合わせて、塁を進んだり戻ったりできる。 ・塁上の走者の状況に応じて、投げる方向や投げ方を変えて中継したり、仲間の動きに合わせて捕球しやすいボールを投げるができる。 ・チーム、個人の特性に応じた課題を見つけ、課題解決の取り組みを工夫することができる。 	
10	球技(選択)		サッカー・バスケットボール <ul style="list-style-type: none"> ・味方がつくった空間にパスを出したり、ゴールに向かってボールをコントロールして運ぶことができる。 ・スクリーンプレイやポストプレイなど味方が侵入する空間を作ることができる。 ・チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手ボールを奪ったり、味方が抜かれたときの攻撃者を止めるためのカバーの動きができる。 ・シュートを打たれない空間にボールをクリアすることができる。 ・チーム、個人の特性に応じた課題を見つけ、課題解決の取り組みを工夫することができる。 	
11		サッカー バドミントン バレーボール 卓球 バスケットボール		

			全種目 ・競技特性を理解し、自己の能力に応じた技能を身につけゲームに役立てられるようにする。 ・助言しあったり、互いに協力し合って練習することができるようにする。 ・ルールと審判法をおぼえ競技を進行させることができる。	
12	体育理論	豊かなスポーツライフ の設計		
1	球技 (選択)	バドミントン 卓球 バレーボール (ビーチボール)	体育理論 ・生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計の仕方について理解できる。 1学期 ①生涯スポーツの見方・考え方 ②ライフスタイルに応じたスポーツ 2学期 ③日本のスポーツ振興 ④スポーツと環境	・小テスト
2				
3				

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。

教科・学科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年	1
使用教科書	現代高等保健体育		発行者の番号・略称	50 大修館		教科書の番号	保体701
指導者名			副教材等	現代高等保健体育ノート			

1 学習の到達目標

- ・個人社会や社会生活における健康・安全に関する事柄に興味関心を持ち、科学的に思考・判断し、総合的に捉えることができるようになる。
- ・健康・安全の課題に対して、的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択および健康的な社会環境づくりが実践できるような資質や能力を身につける。

2 学習の計画(どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

月	単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)	評価方法
4		健康の考え方と成り立ち	・様々な健康の考え方について例を挙げて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例を挙げて説明できる。	・授業態度観察 ・学習ノート
		私たちの健康のすがた	・我が国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ・我が国の現在の健康問題について例を挙げて説明できる。	
5	現代社会と健康	生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について例を挙げて説明できる。	・授業態度観察 ・学習ノート
		がんの原因と予防	・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんの一次予防と二次予防について例を挙げて説明できる。	
		がんの治療と回復	・がんの主な治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	
6	現代社会と健康	運動と健康	・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動の仕方について例を挙げて説明できる。	・授業態度観察 ・学習ノート
		食事と健康	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。	
		休養・睡眠と健康	・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ・健康と睡眠の関係及び健康に良い睡眠のとり方について説明できる。	
7		喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例を挙げて説明できる。	・授業態度観察 ・学習ノート ・学期末考査
8				
9	現代社会と健康	飲酒と健康	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例を挙げて説明できる。	・授業態度観察 ・学習ノート
		薬物乱用と健康	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例を挙げることができる。	
		精神疾患の特徴	・精神疾患の例を挙げ、発病の要因と主な症状について説明できる。 ・現代社会における精神保健の課題を挙げることができる。	
10	現代社会と健康	精神疾患の予防	・精神疾患を予防する方法について説明できる。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。	・授業態度観察 ・学習ノート
		精神疾患からの回復	・精神疾患の治療について例を挙げて説明できる。 ・精神疾患の適切な治療や回復のために必要な社会環境について説明できる。	
		現代の感染症	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	
11	現代社会と健康	感染症の予防	・感染症の予防対策について3原則から例を挙げて説明できる。 ・感染症への個人と社会の対策について例を挙げて説明できる。	・授業態度観察 ・学習ノート
		性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例を挙げることができる。	
		健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・健康に関する適切な意志決定・行動選択の際の工夫について例を挙げて説明できる。	
12		健康に関する環境づくり	・社会環境の健康への影響について例を挙げて説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくりの特徴について説明できる。	・授業態度観察 ・学習ノート ・学期末考査
1	安全な社会生活	事故の現状と発生要因	・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例を挙げて説明できる。	・授業態度観察 ・学習ノート
		安全な社会の形成	・安全のために必要な個人の行動について例を挙げて説明できる。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例を挙げて説明できる。	
		交通における安全	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例を挙げて説明できる。 ・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。	
2	安全な社会生活	応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義について説明できる。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントを挙げることができる。	・授業態度観察 ・学習ノート
		日常的な応急手当	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。	
3		心肺蘇生法	・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 ・実際に、心肺蘇生法を行うことができる。	・授業態度観察 ・学習ノート ・学年末考査

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。

3 評価の観点

知識・技能	健康な生活を送るために必要な課題や対策方法について理解している。 ほか
思考・判断・表現	課題を発見し、原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 ほか
主体的に学習に取り組む態度	学習に主体的に取り組もうとしている。 ほか

教科・学科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年	2
使用教科書	現代高等保健体育改訂版		発行者の番号・略称	50 大修館		教科書の番号	保体 304
指導者名			副教材等	現代保健ノート			

1 学習の到達目標

・個人社会や社会生活における健康・安全に関する事柄に興味関心を持ち、科学的に思考・判断し、総合的に捉えることができるようになる。
 ・健康・安全の課題に対して、的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択および健康的な社会環境づくりが実践できるような資質や能力を身につける。

2 学習の計画(どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

月	単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)	評価方法
4	生涯を通じる健康	思春期と健康 性意識と性行動の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における体の発達の特徴を説明できる。 ・思春期の行動面・心理面の特徴を説明できる。 ・性意識の男女差を、性的欲求のあらわれ方の違いを例にして説明することができる。 ・性にかんする情報が性行動の選択におよぼす影響について具体的な例をあげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート
5		結婚生活と健康 妊娠・出産と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な結婚生活をいとなむための留意点を、心身の発達の観点から説明できる。 ・結婚生活が家族の健康づくりにどうかかわっているかを説明できる。 ・受精・妊娠・出産の過程を説明できる。 ・妊娠・出産期の健康のために、留意すべき点をあげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート
6		家族計画と人工妊娠中絶 加齢と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・避妊法を選択する際の留意点を、男女の立場からあげられるようになる。 ・人工妊娠中絶の条件、および女性の心身におよぼす影響について説明できる。 ・加齢にともなう心身の変化について、形態・機能の両面から説明できる。 ・中高年期を健やかに過ごすための留意点を具体的にあげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート
7		高齢者のための社会的 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活と健康にかんする現状と、健康課題について説明できる。 ・高齢社会に対応した保健・医療・福祉の連携と意義と、総合的対策の必要性を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート ・学期末考査
8				
9		保健制度とその活用 医療制度とその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・保健行政の役割と健康づくりについて説明できる。 ・保健サービスの活用について説明できる。 ・医療制度と医療保険の仕組みについて説明できる。 ・医療機関と医療サービスの活用について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート
10		医薬品と健康 さまざまな保健活動や対策	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の種類と使い方を説明できる。 ・医薬品の安全性のための対策について説明できる。 ・健康づくりのための活動について説明できる。 ・民間機関の保健活動を説明できる。 ・国際機関の保健活動について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート
11	社会生活と健康	大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染はどのようにおこり、どのように健康へ影響するかを、原因物質の例をあげて説明できる。 ・水質汚濁はどのようにおこり、どのように健康へ影響するかを、原因物質の例をあげて説明できる。 ・土壌汚染はどのようにおこり、どのように健康へ影響するかを、原因物質の例をあげて説明できる。 ・環境汚染の防止・改善への対策をあげて、説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート
12		環境衛生活動のしくみ と働き	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理の過程を簡単に説明できる。 ・ごみ・し尿や上下水道の整備について問題点と対策を具体的にあげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート ・学期末考査
1		食品衛生活動の仕組み と働き 食品と環境の保健と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の衛生管理のために、行政および製造・生産者がおこなっている対策例をあげることができる。 ・食品の安全性を確保するために私たちができる対策の例をあげることができる。 ・ごみによる環境汚染を予防するために私たちができる対策例をあげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート
2		働くことと健康 労働災害と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことと健康が相互に影響することの例をあげることができる。 ・仕事のしかたや職場環境の変化にともない、働く人の健康問題がどのように変わってきたかを説明できる。 ・労働災害の防止対策として、職場と個人がおこなうべきことがらについて、あげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート
3		健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> ・職場の健康対策について説明できる。 ・日常生活での健康増進について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度観察 ・学習ノート ・学年末考査

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。